

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年12月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300872
法人名	社会福祉法人 鹿屋恵友会
事業所名	グループホーム花岡の里
所在地	鹿児島県鹿屋市花岡町3988 (電話) 0994-31-8937
自己評価作成日	平成22年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成22年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ベランダから錦港湾が望め、景色がすばらしく、自然に囲まれている。

広いホールに畳敷きのスペースがあり、居室は家庭的で仏壇や鏡台が置け、居心地の良い住まいになっている。

行事や買物など外出の機会をできるだけ多くもうけている。

病院受診は毎月スタッフが付き添い、状態変化に応じて受診を行い、健康管理に努めている。

整体(月2回)、歯科往診(毎週木曜日)利用できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

薩摩半島や錦江湾を望める景観の良い高台に位置し、自然環境に恵まれたホームである。

利用者が生き生きとして活気のあるホームを目指しており、利用者の会話も弾み明るい雰囲気である。

職員も安定しており、資質向上のために資格取得への意欲も高く、介護福祉士、ケアマネージャー等への資格取得挑戦や資格取得者も出ている。

地域との交流は、グランドゴルフ大会への参加や敬老会・お食事会など、地域のイベントに呼ばれて交流が盛り上がりつつある。

職員間の仲が良く、支え合いながら明るく楽しい職場となっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝ミーティングで理念を唱和している。	わかりやすく明快な理念を掲げ、理念の共有と実践に取り組んでいる。開設より一定の期間が経過し、理念の見直しを検討中である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入している。 町内会の食事会のお誘いがある。 近所のスーパーへ買出しに出かけている。 時々、近隣の農作物のおすそ分けがある。	事業所は、地域の集落とやや距離を置くが、町内会に加入し、催し物時には参画し役割を果たしている。地域の方から採れたての野菜などの提供があり、交流が図られている。近くの大学からボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域にある体育大実習生の受入をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況報告をし、意見をもっている。	会議では、委員から町内会行事案内や交流活動・認知症についての相談などがあり、相互に意見を活かしながらサービスの向上につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>相談ごとがあれば、電話をしたり、直接出向いている。</p>	<p>介護サービス提供にあたっての運営上の相談をしたり、利用状況の報告をしたりして、連携を取り合っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会で確認しあっている。 研修会に参加して報告している。 施錠や拘束は行なっていない。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置し、11項目の具体的な行為について確認し、拘束のないケアを実践している。外出への動きがあるときは、一緒に散歩するなどの支援をしている。昼間は玄関等への施錠はしていない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修参加と話し合いを行なっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者が一人に対応するため、スタッフは理解していない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約に関しては、文面を通して説明し、理解・納得を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時に意見や要望を聞いている。遠方の方には手紙を出している。</p>	<p>遠方の家族があり、家族会の立ち上げまでには至っていないが、面会時や定期的な報告・電話連絡時などで要望を聞くようにしている。グルーホーム新聞でも支援状況を伝え、家族と密接な情報交換を行い、意見を反映するようにしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>朝のミーティング時や月1回のスタッフ会議時、または個別に相談に応じている。</p>	<p>勤務環境や勤務ローテーション・排泄支援の在り方など、管理者のもとに職員からの意見が出されて、具体的な解決策が採られている。事例によっては、管理者から代表者へ相談し運営に反映するようしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>スタッフの休み希望や急な休み変更を聞き入れ、働きやすい職場環境づくりをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に参加し、月1回の会議で発表の場を設けて実践につなげている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加盟し、研修の場に参加している。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>対話を通じて本人の思いや不安を受け止め、関係性を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前の見学や、こちら側から出向いていく事をしながら、家族の相談や要望に応じている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用開始前に本人に見学してもらい、他の利用者とは時間を過ごしてもらおうなどして見極めている。 他のサービスを紹介する事もある。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>掃除・洗濯・ゴミ集めなど、できることを一緒にしている。 会話の中で励ましたり、励まされたりしている。</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族に本人の様子を知らせている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月友人と外食に出かける利用者がいる。	馴染みの美容室や店に買い物に出かけたり、図書館・地域公民館・自宅訪問をしたり、また、隣接のデイケア通所の馴染みの人と会って話をしたりして、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の工夫、トラブルの仲裁、レクや行事で皆とかがわりを深めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移行されるときは、情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。本人の日々の言動、行動から汲み取っている。	日々の支援・交流の中での表出や、本人の行動・表情、家族からの情報などから、意向を把握すると同時に、職員間でも情報共有に努め、本人中心の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や友人の面会時に情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、表情、動き等で観察を行い、個別記録で把握をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族とかかわりながら思いを聞き、スタッフ全員の意見も反映させプランにしている。	スタッフ全員が一人ひとりの特徴を把握し、当初のアセスメントや、支援の中で得られた情報などをスタッフ会議で検討し、モニタリングを3ヵ月ごとに実施する中で、状況に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や実践の中での気づきをスタッフ間で話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮し、個々に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館利用 近くのスーパーへ買物 病院受診 月1回外食			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医の受診。 病院変更時は家族と話し合いをして変更する。 皮膚科の訪問診療、歯科往診を受けている。	かかりつけ医での受診支援を第一にしている。遠隔地のかかりつけ医の場合は家族との相談により、受診の支援をしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時は皆で話し合っ、Drへ伝えるべきポイントを確認している。 状態変化があれば家族へ連絡している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>Dr、家族、ソーシャルワーカーを含めた、途中経過のカンファレンスを行なっている。入院前は情報提供行なっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前の事前説明と、本人の状態に合わせて、家族と話し合いを重ねている。</p>	<p>「軽度認知症中心の支援である」旨の事業所の方針を入居前の説明で明確にして、利用を開始するようにしている。重度化した場合は、家族と相談し医療機関等、他の機関での利用を支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急事対応はマニュアル化されている。研修に参加している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行なっている。</p>	<p>スプリンクラーが設置されることになっている。避難誘導・災害防止訓練は昼・夜間想定で年2回実施している。訓練への地域住民の参加協力要請と水の備蓄は今後の計画としている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴時に本人に恥ずかしい思いをさせないようにしている。 居室へ立ち入る際も声をかけて勝手に入出入りしないようにしている。	入室時・整容時・入浴時・排泄介助時・食事介助時等々、人格の尊重とプライバシーに配慮し、さりげなく支援するようにしている。言葉かけも馴れ合い言葉にならないように、その人に合わせて分かり易く伝えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの押し付けにならないように本人に決めてもらう場面を作っている。(入浴、メニュー決め、する・しないなど)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れに沿って1人ひとりに応じたペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人のこだわっているスタイル(帽子)でその人らしさを保てるようにしている。 定期的な白髪染めを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー決め、ランチョンマットなどのセッティング、下ごしらえ、片付けなど出来る人には手伝ってもらっている。	「楽しい食事」をモットーに嗜好調査をして、その人に合った食事を提供するようにしている。また、下拵えや準備・後片付けなど、できることに参加し職員と一緒に食事を楽しんでいる。駅弁や外食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、カロリーの制限が必要な方には対応している。 好き嫌い、とろみ食への対応。 食器の工夫（取っ手付おわん、深くてすくいやすい茶碗）		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの力に応じた歯磨き支援を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人に合わせて、紙パンツやパット類を使用している。 排泄チェック表で排泄リズムを把握している。	個々の排泄パターン・リズムを把握し、誘導するようにしている。入居時におむつ使用の人が、リハビリパンツや普通のパンツになるなどの事例があり、排泄自立への支援を進めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品をおやつに取り入れている。 水分補給と室内ウォーキングで身体を動かす事をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	好みの湯温にしてゆっくり入ってもらっている。 無理強いをしない。	希望の時間帯に入浴できるようにしているが、午後中心の入浴となっている。好みのシャンプーを使ったり、シャワー浴・足湯など、希望によって楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるようにリネン、衣服、空調の調整を行い、安心できる声かけで眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書、受診時の記録を整備して、全スタッフが状態変化を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの力量に応じた役割がある。(カレンダーめくり、台拭き、洗濯物たたみ)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>外食、ドライブを行事で行ったり、個別に外出を行なっている。</p>	<p>ホーム周辺の散歩や、野菜を育てたりして屋外に出るよう支援をしている。また、職員の買い物時への個別の外出支援もしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持している人はいないが、場面に応じてお金を所持して使えるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族からの電話をつないでいる。年賀状を出している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ソファ、畳のスペースがあり、思い思いに過ごしてもらっている。ホール内の台所から食事の臭いやまな板で刻む音で五感を刺激している。</p>	<p>共用空間は明るく、採光・温湿度・換気も適切になされており、快適な生活環境となっている。テーブルやソファ、畳の居間などが配置され、日めくりカレンダーや季節感のある飾り付けなど、居心地のよい共用空間となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	玄関先に椅子を置いている。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	本人が落ち着くように、本人家族と話をしながら、家具を持ち込んでもらっている。	利用者一人ひとりの生活習慣を考慮し、ベッドや畳の部屋が設定されている。使い慣れた寝具やタンス・椅子などが持ち込まれ、居心地良く安心して過ごせる工夫がなされている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	ホールの壁際に手すりの設置をしている。 トイレ表示あり。 居室入口に本人の写真を掲げている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない